

基本目標 4 地域の特性を活かした、働きやすいまち



「白菜生産量日本一の町」
安静小 相田 幸さん

【基本目標4の施策体系】

- 4-1 次世代につなぐ農業の振興・活用
- 4-2 活力を生み出す商工業の振興
- 4-3 地域資源・体験・食を活かす観光の振興
- 4-4 様々な人が活躍できる雇用環境

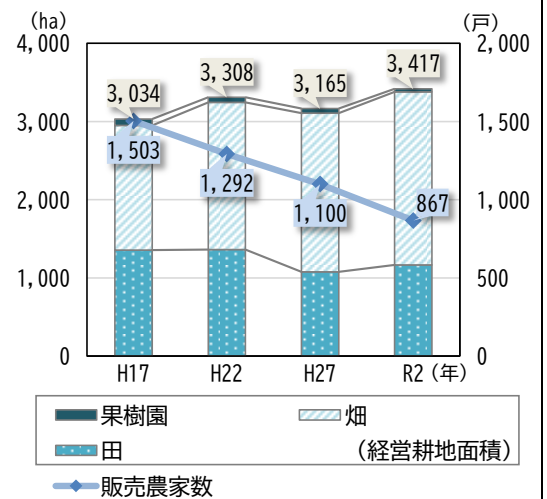
4-1 次世代につなぐ農業の振興・活用



現況・課題

- 本町の販売農家戸数の推移をみると、年々減少していますが、経営耕地面積は若干上昇しており、このうち畑が6割以上を占めています。
- 令和5年市町村別農業産出額（推計）によると、町の産出額は2,387千万円（県内第4位）となっており、白菜、メロン、梨などの特産品があります。
- 今後は、平坦で肥沃な土地と首都近郊という立地条件を活かし、都市近郊型農業の推進により、地域の基幹産業として次世代へ継承していくとともに、農業の持つ力を地域経済の活性化につなげていくことが必要です。

販売農家数・経営耕地面積の推移



【出典】農林業センサス

基本方針

担い手の育成や生産基盤の整備など農業の持続性を確保するとともに、首都圏近郊という好条件を活かした流通体制の強化や農産物の高付加価値化により、農業の更なる発展と農業のもつ力を活かしたまちづくりを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
農産物ブランド力強化支援事業による加工品開発件数（4年間の累計）	5件（R3～R6年度）	10件（R8～R11年度）
新規就農者数（4年間の累計）	17人（R3～R6年度）	25人（R8～R11年度）

取組施策

①担い手の確保・育成

- 若者が安心して農業に従事できる環境を整えるため、関係機関と連携し、就農相談会や学校農園の支援を継続的に推進するとともに、新規就農者や認定農業者に対し、各種支援制度の周知と活用を促進し、地域の農業を担う人材の育成と定着を図ります。
- 国及び県の事業を活用しながら、農業用機械・施設の導入を支援します。

②生産・流通体制の強化

- 生産者、茨城県、J A、市場などの関係機関と連携し、首都圏等における販売促進活動を強化するとともに、地域農産物の魅力発信に向けて各種PR活動を展開します。
- 茨城県と連携し、ICTを活用したスマート農業の実践や省力化に向けた環境整備を支援し、生産性向上と担い手の負担軽減を図ります。
- 耐暑性品種の導入や需要動向に応じた作付けの工夫により、高品質で安全・安心な米の生産体制を図り、消費者に選ばれる米づくりを推進します。
- 野菜や果物の安定供給に向けて、生産施設の整備支援や流通体制の強化を図ります。
- 畜産については、優良種の導入と生産技術の改善を進め、生産性と品質の向上を図ります。

③地域農産物の高付加価値化

- 本町の農産物や特産品の全国的なPR活動を展開しながら、関係機関や各種団体と連携し、それらの魅力を活かした「八千代ブランド」づくりを目指します。
- 6次産業化による付加価値と収益性の向上を図るため、国等の制度を活用し、事業化を目指す人材の発掘や商品開発、販路開拓などの支援を進めます。

④農業生産基盤の保全・整備

- 生産性や作業効率の向上に向けて、畑地帯総合整備事業等を活用し、県や地権者との調整を図りながら、農業生産基盤の整備を推進します。
- 遊休農地の実態把握や発生防止に向け、毎年の調査を継続するとともに、遊休農地の再生に向けて、地域や関係機関と連携して、担い手確保や作物選定、必要な基盤整備などの支援に取り組みます。
- 農地中間管理機構の事業などを活用し、関係機関と連携して、担い手への農地の集積・集約化を進めます。
- 関係機関と連携・協議し、優良農用地の確保・保全を図るとともに、遊休農地の解消に取り組みます。

⑤持続可能な農業への取組と農産物を活かすまちづくり

- 農地や用排水路、農道などの農業関連施設の適正な維持管理や環境保全に取り組むとともに、将来に向けて長寿命化対策を図ります。
- 土づくりを通じて化学肥料・農薬の使用を低減するなど、環境負荷に配慮した持続可能な農業と、安全・安心な農産物の生産を進めます。
- 直売所の活用・強化、町内飲食店との連携などにより、農産物を活かすまちづくりを進め、地域経済の活性化を図ります。

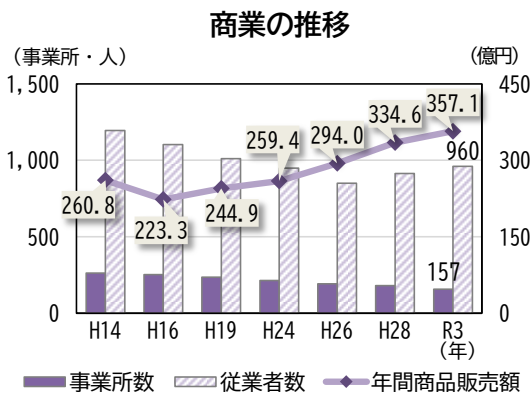
【関連計画】 ・ 八千代町農業振興地域整備計画（R8～R12年度）
・ 地域農業経営基盤強化促進計画（R7～R16年度）

4-2 活力を生み出す商工業の振興

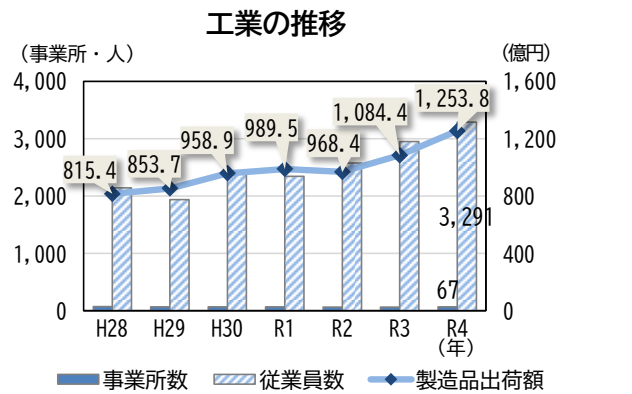


現況・課題

- 本町の商業（卸売業・小売業）の推移をみると、事業所数は年々減少傾向にある一方で、年間販売額は増加しており、販売額の約半数を卸売業が占めています。
- 本町の工業（製造業）の推移をみると、事業所数は横ばいで推移しているものの、従業員数及び製造品出荷額は年々増加しています。
- 人口減少・少子高齢化の進行により、地域の活力づくりが課題となる中で、圏央道・国道4号バイパス・筑西幹線道路などへの良好なアクセスを活かして商工業の振興を図り、地域経済の活性化につなげる必要があります。



【出典】商業統計調査、経済センサス
※卸売業・小売業の合計



【出典】工業統計調査、経済センサス、経済行動実態調査
※従業員4人以上の事業所

基本方針

中小企業者の経営基盤の安定化、創業支援、企業の操業環境の向上や立地への支援を通じて、地域経済の活性化につながる、活力ある商工業の発展を目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
製造品出荷額	1,256.4 億円 (R5 年度)	1,500 億円 (R11 年度)
新規立地企業件数 (新工場の建設を含む) (4年間の累計)	2 社 (R3~R6 年度)	3 社 (R8~R11 年度)

取組施策

①商工団体の支援

- 商工会などの商工団体と連携し、先端設備の導入やデジタル化など、中小企業者の育成を支援します。
- 商工会などが中心となって開催する各種イベントについて、情報発信や運営を支援し、地域の賑わい創出と商業の振興を図ります。

②中小企業者の経営基盤の安定化支援

- 商工会などと連携して、事業継承に関するニーズを把握しながら、後継者の育成や確保を図ります。
- 商工会や金融機関などを通じて、中小企業者への経営情報の提供を行うとともに、経営相談・資金融資に関する支援を行います。

③新規創業や新たな事業展開への支援

- 地域での新規創業に向けた事業資金の支援を行い、経営負担を軽減して、雇用の創出や地域経済の活性化を図ります。
- 創業支援等事業計画に基づき、商工会や金融機関などの関係機関と連携して、創業塾による開業サポートなどを行い、商工業の健全な育成を図ります。

④地域経済を支える企業への支援

- 町独自の優遇措置などにより、既存企業の業務拡張や本町への事業所・工場などの進出を支援するとともに、地元雇用や町内居住を促す制度を推進します。
- 若者や女性をはじめ町民の交流につながる場や、農業や「食」に関わる企業など、企業や町民のニーズを踏まえながら、地域の活力創出につながる新たな産業系土地利用の確保について、調査・検討を進めます。
- 企業の操業環境の向上のため、県が整備する国・県道や筑西幹線道路などへのアクセスが向上するよう主要町道の改良整備を進めます。
- 企業の新規立地や操業環境の整備に関わる支援制度を周知し、活用を促進します。

町の特産品や事業者の情報サイト
「八千代町つながるマーケット」



【関連計画】

第2期茨城県県西地域基本計画（R6～R10年度）

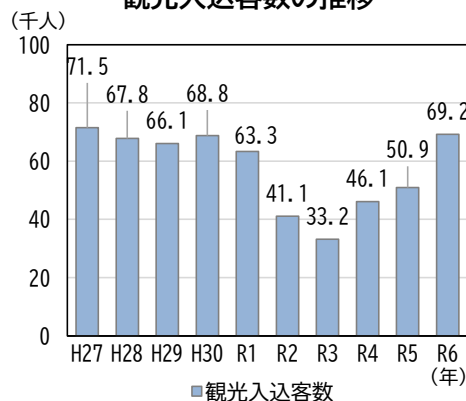
4-3 地域資源・体験・食を活かす観光の振興



現況・課題

- 本町は、広大な田園風景の中で育まれる豊富な農産物を活かし、四季折々の味覚や自然を楽しむことが観光・交流の強みです。
- 八千代グリーンビレッジは、天然温泉施設の憩遊館、キャンプ場・コテージのほか、都市と農村の交流拠点となるクラインガルテンといった農業体験施設が整備されており、観光・交流の拠点となっています。
- 近年の観光入込客数は、コロナ禍で大幅に減少したものの、以前の水準に回復しつつあります。今後は、農産物や自然をはじめ、文化やイベントなどの地域資源を活かして、観光や都市との交流を促進し、交流人口や関係人口の増加を図ることが必要です。

観光入込客数の推移



【出典】茨城の観光レクリエーション現況
(観光客動態調査報告)
※入込客数：観光地点及び行祭事・
イベントの延べ入込客数

基本方針

田園風景や地域文化、イベントなどの地域資源や体験に加え、農産物などの「食」を活かした観光を通じて、通年での誘客を促進し、誰もが何度も訪れたい魅力あるまちを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
観光入込客数	69,200人 (R6年度)	101,800人 (R11年度)

取組施策

① 地域資源・体験・食を活かした観光まちづくりの推進

- 観光拠点である八千代グリーンビレッジと関連団体、事業者などが連携し、既存の観光資源の活用を図ります。
- 町内の観光資源に関する案内板の設置・更新を進め、町内周遊環境の充実を図ります。

- 八千代グリーンビレッジにおいては、直売所やレストランでの買い物や飲食により地元産品への理解を深めるとともに、クラインガルテン八千代利用者と地域住民との交流会を通して、都市と農村の交流を進めます。
- 各種団体が主体となって行う、地域の魅力を育むイベントを支援し、地域の活力向上と交流促進を図ります。
- 野菜や果物の生産地として、収穫体験や市民農園を活用した農業体験などの充実を図ります。
- 本町の風景や文化といった地域資源を活かし、映像制作の誘致や支援等のフィルムコミッション活動の推進体制を整え、本町の魅力発信と認知度向上、映像ファンの誘客を図ります。
- 点在する文化財や史跡、伝統行事、古民家、鬼怒川堤防のサイクリングロードなどについて、地域の観光資源として活用を検討し、交流人口の増加につなげます。
- 地域の交流環境の向上を目指し、八千代グリーンビレッジ憩遊館、農村環境改善センター、町民公園などの既存の交流施設の機能充実と、施設間の連携強化を図ります。

②地域間連携による誘客の促進

- 近隣市町や茨城県観光協会などの関係団体と連携し、広域的な回遊型観光ルートや観光キャンペーンなどの検討を進めるとともに、イベント情報の発信、誘客活動を行います。
- インバウンド市場の新規開拓に向け、外国人観光客に対する情報の発信・提供や受入体制の整備を進めます。

③戦略的な観光情報の発信

- 観光マップやパンフレット、ホームページ、SNS、マスメディアなどの様々な媒体を活用し、常に新しい観光情報を発信することで、本町のPR活動と誘客促進を図ります。
- ターゲットエリアや年代を選定し、地域資源・体験・食を活かしたシティプロモーション活動を積極的に展開することで、効果的な誘客と本町のブランド力向上を図ります。



八千代グリーンビレッジ憩遊館

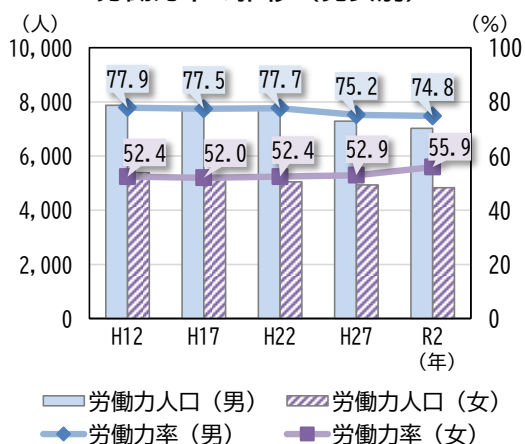
4-4 様々な人が活躍できる雇用環境



現況・課題

- 少子高齢化の進行に伴い、本町の生産年齢人口（15～64歳）の割合は令和2年（2020）で60%を下回っており、将来人口推計によると、今後はさらに低下する見込みです。（▶将来人口フレーム）
- 本町における労働力率の推移を男女別にみると、男性は緩やかに減少傾向を示している一方、女性は増加傾向にあり、労働力の担い手として女性の参画が着実に進展しています。
- 本町が今後も持続可能なまちとして発展するためには、生産年齢人口の確保を図るとともに、年齢・性別・国籍等にかかわらず、多様な人材が能力を発揮できるよう、雇用環境の整備・充実を図ることが必要です。

労働力率の推移（男女別）



【出典】国勢調査、
※労働力率：15歳以上就業者に占める
就業者+完全失業者の割合

基本方針

雇用の確保・安定化に加え、高齢者や子育て世代、外国人など様々な人が、自分らしく働ける環境づくりを進め、誰もがいきいきと活躍できるまちを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
事業所数	921 事業所（R3 年度）	930 事業所（R8 年度）
新規学卒者就職祝い金事業の支給者数 （4年間の累計）	—（R6 年度）	30 人（R8～R11 年度）

取組施策

①雇用の確保・安定化

- ハローワーク、商工会などの関係機関と連携して、高校や大学等の教育機関と地元企業との就職情報交換会や合同面接会を開催し、若年層の就職支援を進めます。

- 就業していない若者に対し、ハローワーク等の専門機関との連携を強化し、職業意識の啓発や中途採用の支援などの就業相談を通じて、就業機会の創出を図ります。
- U I J ターン希望者や新規学卒者に対して、本町での就労に向けた支援を継続し、地域産業を担う人材の確保を図ります。
- 労働人口の減少や国の制度動向を踏まえ、外国人労働者の受入体制について検討を進めます。

②元気な高齢者の就労支援

- 元気な高齢者が、これまで培ってきた知識や経験を地域で活かせるよう、シルバー人材センターの会員拡大や運営を支援し、就労機会の創出と勤労意欲の高い高齢者の就労促進を図ります。

③子育て世代の就労支援

- 結婚・子育て等を理由に就業を中断した方やひとり親家庭を対象に、関係機関と連携して、就労に向けた相談会やセミナーなどを開催し、就労希望の実現を支援します。
- 子育てと仕事の両立を希望する方や疾病等で休職中の方などの就労活動を支援するため、託児サービスの提供や育児支援体制の充実を図ります。

④誰もがいきいきと働くことができる環境づくり

- 労働者が安心して働き続けられる環境づくりに向け、企業や関係機関と連携し、事業主行動計画の策定に向けた普及啓発など、ワーク・ライフ・バランスの推進や多様な働き方の支援に取り組みます。
- 中小企業者の福利厚生の実施や外国人を含む多様な人材の就労支援に向けて、茨城労働局等の関係機関と連携し、共済制度への加入促進や、日本語習得・文化交流に取り組む事業所の支援を進めます。



教育機関と地元企業との就職情報交換会

儲かる農業、農業を活かして未来へ

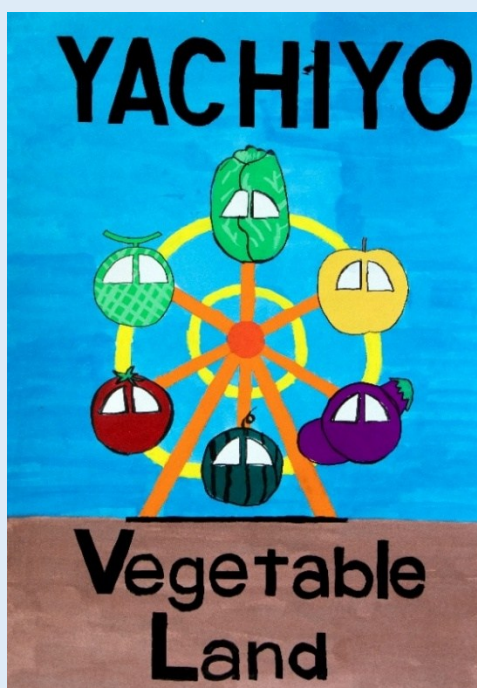
本町は、基幹作物の白菜をはじめ、「タカミメロン」や「あくと梨」など、全国に誇れる農産物の産地です。豊かな自然と肥沃な土壌に育まれた農産物は、町の大きな強みです。

町では、生産にとどまらず、販路拡大や新商品の開発、加工などを進め、農商工が連携した産業の振興（6次産業化）を目指しています。こうした「6次産業化」によって、農業が新たな収益を生み出し、まちの未来を支える力とすることがねらいです。さらに、豊富な農産物や加工品を活用し、ふるさと納税を強化することで、地域のまちづくりへの還元を目標としています。

農業は交流の場としても重要です。八千代グリーンビレッジ憩遊館では、クラインガルテン（滞在型農園付宿泊施設）を導入し、地元農家が「田舎の親戚」として利用者を支えています。直売所やレストランでは四季折々の農産物を楽しみ、令和7年度にはリニューアルを実施し、加工施設の機能拡大やカフェ、コワーキングスペースの新設など、新たな観光拠点・地域内外からの交流の場として期待されています。

「儲かる農業」は、町の産業を強くし、暮らしを豊かにし、交流を広げます。

農家の皆さんはもちろん、農家以外の皆さんも、地元の農産物を味わい、応援し、交流に参加することで、八千代の農業の力を一緒に育てていきませんか。



「八千代町に遊園地ができますように！」
八千代一中 斉藤 優さん